

CONTENTS:

- P1 教職員研修ワークショップ開催、寄稿 (1)
- P2 寄稿 (2)、FD・SDフォーラム開催、寄稿 (3)
- P3 初任教員向けプログラム実施、寄稿 (4)
- P4 2015年度前期授業アンケート結果報告

## 教職員研修ワークショップを開催しました

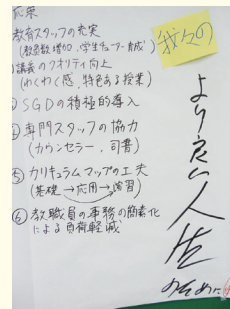
2015年度教職員研修ワークショップ 9月8日・9日開催

- テーマ 「初年次教育の問題点」
- 場所 1401・1402教室他 (枚方キャンパス)

教職協働作業を実践する機会でもある教職員研修ワークショップ(WS)を9月8・9日の両日、情報科学部を会場として開催しました。工大としては第4回目となりますが、これまでの実績の積み重ねにより、本学における重要な研修行事として認知されてきたように思われます。今回も摂南大学薬学部・河野武幸学部長、同・安原智久准教授のサポートを仰ぎながら、11名のファシリテーター教職員と教務課メンバーがWSを運営し、教員18名・職員6名の参加者が濃密な2日間の研修に挑みま

した。今回のWSも討論の主題は「初年次教育」にフォーカスしましたが、過去3回は異なり、カリキュラム立案のテーマには「より良い人生を送るための大学教育」という魅力的な?文言が提示されました。WSのスタイルですが、参加者全員でセッション・レクチャーを受講、続いて8名ずつの小グループに分かれての討論とプロダクト作成、という流れを時間厳守でセッション毎に繰り返す、という結構ハードなものです。

参加されたお二方の寄稿文に率直な感想が述べられていますが、最終的なプロダクトが完成した時の参加者の心地よい疲労感と達成感はひしひしと運営スタッフにも伝わってきました。日頃は膝突き合わせて接する機会がほとんどない教職員同士の交流も深まり、爽り多い研修会となりました。



今回の全体セッション「学習目標」におけるテーマは、「より良い人生を送るための大学教育」でした。



グループワーク(プロダクト製作)



今年の参加メンバー

### 寄稿 (1) 「教職員研修ワークショップに参加して」



知的財産学部知的財産学科  
講師

大西 宏一郎

まずもって37歳のこの年齢までおおよそ人生で実習を伴う研修を受けたことがなかった私ですので、2日がかりの研修ワークショップとはいかなるものかと内心ビクビクして臨んだというのが本音です。同僚の先生からとにかく大変だったと聞いていたので、私が想像したのは外部の、しかもスバルタの講師がいて、礼儀作法にうるさく、一挙手一投足がチェックされ罵倒される世界でした。こりゃ大変なことになるぞと身構えていたのですが、研修が始まってみると、そもそも外部講師がいない!同僚の教職員の方々が研修全般を取り仕切っているではありませんか!!正直びっくりしました。内容もスバルタではなく、大学での研修にふさわしい、しっかりと頭を使うものでした。テーマは「初年次教育」で、それについて教職員合同チームに分かれ、テーマに関する具体的な作業工程を目標設定、学習方略、評価方法等と区切り、それぞれに与えられた時間の中で、議論、まとめ、発表ということを繰り返すというものでした。一つ一つの課題で与えられる時間はわずか。その中でチーム全員で議論し、一定の結論を導き、発表用資料に落とし込み、それを基にプレゼン

テーションできるころまで持って行くという一連の流れをこなさなくてははいけません。それはもう常に時間との戦いでした。普段の研究では、問題にぶち当たると、朝も夜も、歩いている時も(寝てる時も?)ひたすら同じ事をおおよそ無制限に考え続け、納得のいく結論を導く。それとは対極の世界です。その観点で見ると、もう少し時間があればもう少し洗練されたアウトプットを出せたかもしれないと心残りがあります。ただ、短い時間の中で一定のアウトプットを出すと言うこと自体が社会人として必要かつ重要なスキルですし、そうしたことを経験できたことはなによりの収穫でした。

苦労した点は、他者の論理展開をすばやく正しくフォローしていくことの難しさでした。とにかく時間がないので、止まることなくどんどん議論が進行していく。一瞬でも議論から意識をそらすとその瞬間においていられる。考え込んでしまうと議論から落ちこぼれる。しかし、発言するには自分で考えないといけない。いや本当に頭のトレーニングにもなりました。こういうことばかり書くと、時間のことしか考えてなかったと思われるかもしれませんが、KJ法などの思考ルーチンやDaleの円錐など色々勉強になったことも多かったです。知的財産学部でも来年からPBL授業科目がスタートをしますが、実際の講義の進め方や学習者に対するフォローの仕方など参考になることもたくさんありました。本当に盛りだくさんな2日間でした。最後に、他の業務の間をぬって研修の準備や当日の講義、マネジメント、フォローアップをしてくださいました教職員の方々にお礼を申し述べます。どうもありがとうございました。

## 寄稿(2) 「教職員研修ワークショップに参加して」



国際交流センター  
伊東 直樹

今回、教職員研修ワークショップに参加させていただき、教育の原理・あり方や、カリキュラム立案から教育評価までの流れなどを、全体セッションやグループ毎の討議、プロダクト作成などを通じて、体系的かつ実践的に学ぶことができました。その中で得られた、私の発見、成果、感銘を、以下に記していきたいと思えます。

発見については、業務目的を常に意識することの重要性を認識できたことです。ワークショップ中、特に学習目標と学習方略を作成する作業では、学生のモチベーションを上げ、学習の効果を最大限に高めることに焦点が置かれました。一方、普段の自分自身を鑑みると、担当業務をただ遂行することに注力しがちで、サービス品質の向上を図るなど、業務改善につながる姿勢を、なおざりにしがちであることに気づき、自省しました。今後は業務を効率的にこなすだけでなく、時には今回のワークショップのよう

に、じっくり業務を見直し、ターゲットにいかにも効果的に働きかけていか、考える機会を設けていきたいと考えます。

成果については、冒頭で挙げた通り、カリキュラム作成や評価に関して学ぶことができた他、学内での人的なつながりを強めることができた点を言及したいと思います。私は現在入職二年目で、先生方や他部署職員の方々と業務をご一緒させていただく経験は多くありません。そのような私にとって、今回経験した、決められた時間の中、集中して、アイデアを出し合い、意見を集約し、成果物を作成していくという、グループワークの一連の共同作業は、密に先生方、職員の方々とコミュニケーションを取ることができ、とても貴重な体験となりました。また、作業の中では、様々な専門を持つ方々の、経験に基づいた意見を伺うことができ、自らの見識を深める良い機会となりました。

感銘については、ワークショップ運営が大変素晴らしいものであったことです。遅延なくスケジュールが進んだこと、大変丁寧な話し方や言葉選んで説明等が行われたこと、随所に学習事項を定着させる工夫が見られたことなど、準備に時間と労力を要したであろうことは想像に難くありません。このような運営側の真摯さは、本ワークショップで強調されていた教育の定義である、「学習者の行動に価値ある変化をもたらすこと」をまさに体験しようとする姿勢であると感じました。

## 全学FD・SDフォーラムを開催しました

### 2015年度第1回(通算21回)FD・SDフォーラム 7月28日開催

- テーマ 「授業アンケート結果と成績データによる授業改善について—工学部における2014年度活動内容の報告—」
- 講師 椋平 淳氏(本学総合人間学系教室 教授)、馬場 望氏(本学建築学科 准教授)、村岡 雅弘氏(本学応用化学学科 准教授)
- 場所 121教室(大宮キャンパス)、1305教室(枚方キャンパス)

今回は「授業アンケート結果と成績データによる授業改善について—工学部における2014年度活動内容の報告—」というテーマで3人の先生方にご講演いただき、220余名の教職員が参加しました。



工学部では、授業アンケート結果と成績データを用いて、自己点検のための「学修実態の可視化」を行い、「学科単位での綿密なFD活動」と「各種FD活動の連携による教育改善活動の組織化」の促進を目指しており、工学部教育課程検討委員会は2014年度に、建築学科・応用化学科で「学修実態の可視化」を試行し、その成果を検証しました。

講演では椋平先生による全体説明のあと、馬場先生ならびに村岡先生より、各学科での活動内容についてご報告いただきました。

今後もFD・SDフォーラムでは学部・学科・授業単位の取組みをご報告いただく機会を設け、情報共有の機会となればとFD委員会では考えております。



椋平 淳 教授



馬場 望 准教授



村岡 雅弘 准教授

## 寄稿(3) 「FD・SDフォーラムに参加して」



情報科学部コンピュータ科学科  
教授  
牧野 博之

いい授業とは何か、とは教員にとって永遠の課題といえます。今回のFD・SDフォーラムでは、授業改善に向けて工学部・建築学科ならびに応用化学科が実施されている授業アンケートの活用に対する取り組みをご紹介いただき、大変興味深く拝聴させていただきました。授業満足度と成績の2軸に対する統計データから、その授業の特質や課題を読み取るという試みて、多くの示唆に富んだ解析結果を提示していただきました。特に、馬場先生からご紹介があったように、ある授業における2クラスの満足度の違いから、他の授業で出される課題との干渉の問題を読み取られたことは非常に大きな成果だと思います。学生の学習を妨げている物理的要因を見出すことは常に重要であり、今回の取り組みでこれを見出されたことは大変素晴らしいと感じました。私自身は、常々授業にはある程度の多様性が必要であり、徒に画一化の方向に進むべきではないと考えておりますが、学生個人が直面するカリキュラムの一貫性や学習量などについては十分な配慮が必要であり、その意味で今回ご紹介いただいた取り組みは、非常に有意義であると思えます。

アンケート結果を授業改善に役立てるためには、そこから学生の感じたことの本質をいかに正しく読み取るか、ということが最も重要であり、同時に非常に難しいと感じています。真面目に回答しない学生や、コメントに的

外れなことを書いてくる学生もいます。学生のコメントについて、どこまで応えることができるか、いつも悩まされます。全ての要望に応えることは不可能ですし、一人にとっていいことでも他の多数の学生にとっては逆効果かもしれません。ましてや、点数で表された統計データから何事かを読み取ることはさらに難しいと感じています。このような中で、今回紹介いただいた手法は、これらを活用する手段として有効なものであると思えます。ただ、授業満足度を尺度にすることについては、村岡先生のご発表や質疑応答にもありましたように学生の甘えが反映されてしまう可能性は否定しきれないので、さらに改善の余地があるように思いました。

情報科学部でも、PBL型の授業が増えており、グループワークで取り扱う場合のアンケート結果は、自ずと講義型のものとは異なってくることが予想されるため、結果の読み取り方も工夫が必要かと思えます。現状の潜在的問題点を見出し、組織的かつ継続的な改善を図っていくことはますます重要になると思えます。

私事になりますが、いい授業とは何か、について学生時代に感銘を受けた言葉があります。大学生のとき、森毅先生(当時京都大学教養部教授)に数学を習ったのですが、先生の授業は、破天荒ながらもとても分かり易く、本当に素晴らしいものでした。その森先生が仰っていたのが、「いい授業とは何か。それは教室にいる一番優秀な子でも何か一つは理解できなかったものが、同時に成績最下位の子でも何か一つは理解できた、と感じる授業です。」ということでした。物理学者のファインマンからの受け売りだと仰っていましたが、この考えは一度に多数の学生を相手にする授業では、最大限の教育効果を実現し得ると感じました。私自身も時々これを出して何とかいい授業にできないだろうか、と日々格闘しています。

今後も格闘は続くと思えますが、授業アンケートを重要なツールの一つとして、理想の授業を目指して継続的に授業改善を行っていきたくと思えます。



## 初任教員向けプログラムを実施しました

2015年度初任教員向けプログラム 9月4日開催

- テーマ 「授業の基本」ワークショップ
- 講師 滋賀県立大学 理事兼副学長  
倉茂 好匡氏
- 場所 762教室（大宮キャンパス）



今年の参加メンバー

滋賀県立大学理事兼副学長 倉茂好匡先生を講師としてお迎えし、2014年度、2015年度に着任された教員を対象に「授業の基本」ワークショップを実施しました。

本研修会は「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」の一つとして協議会との共催事業となっており、加盟大学から8名（奈良学園大学、神戸松蔭女子大学、大阪体育大学、四条畷学園短期大学、京都学園大学、京都医療科学大学）、本学から13名、合計21名が参加しました。

ワークショップの構成は次のとおりです。

- 第1講 授業の基本① -基本の基本-
- 第2講 授業の基本② -授業展開上の罫-
- 第3講 授業づくりワークショップ

第1講から第3講で構成され、第1・2講は「授業の基本」に関する講義、第3講は「授業づくりワークショップ」となっており、教授、准教授、講師、助教といった様々な立場の方々が皆一様に熱心に受講されていました。

第1・2講を経て、第3講では4グループに分かれて授業づくりグループワークを行い、最後に各グループで5分間のミニ授業を実施しました。

同じテーマでのミニ授業でしたが、4グループとも個性のある授業が展開され、講師からはそれぞれのミニ授業に対して講評が行われました。

参加者は明るい雰囲気の中、ワークショップ全体を通じて、授業の準備・導入・展開の大切さやチョークの使い方・黒板の板書・話し方など、多くのものを得た様子でした。

### 「初任教員向けプログラム」参加者から寄せられた感想を紹介します

- 既に授業で取り行っていたポイント、全く配慮できていなかったポイントが、はっきりと自分で理解することができた。  
改善すべき点を中心に授業展開の在り方をもう一度見直してみたい。
- 実践型研修・授業の良さを実感できた。
- 授業構成・板書等、種々改善ポイントのイメージができた。
- 導入（つかみ）の大切さ、発問で反応を見ることを大事だと痛感した。
- よくない講義例は自分もしていることもあり、今後改善していこうと思った。
- 全ての授業内容に関して、理解し易く、楽しく学ぶことができた。  
これからの授業の取り組みの中で今回ご伝授いただいたアイデアを生かしていきたい。
- 日常の講義に手を抜かず工夫することを改めて習った。
- 「何を教えるかではなく、どう教えるか」の基本的な重要を気付かされた。
- 良いモデルをどの場面でも示して下さるので大変分かりやすかった。
- 自分の欠点を改めて考え直し、ステップアップしていく良いきっかけになった。
- 良い例・悪い例を具体的に演じていただき分かりやすい講演だった。
- これからの講義にきちんと取り入れて行こうと思った。
- 一部は無意識にやっていたが、体系化することで積極的に授業に取り入れることができるようになると思う。
- 教わった事の無い内容がたくさん盛り込まれていて大変良かった。
- 技術的に大変得るところが多く、今後実際の講義で色々試してみたい。
- 分かっているつもりで忘れてしまっていることを再確認した。

### 寄稿（4）「初任教員向けプログラムに参加して」



工学部ロボティクス&デザインセンター  
特任教授

上田 悦子

4月に着任して5ヶ月が過ぎた9月4日、初任教員向けFDプログラム「授業の基本」ワークショップに参加しました。

10時スタートの17時過ぎまで、おまけに昼食も会場グループのメンバーと一緒にという濃密な内容に、研修会場に入った時には「一日みっちりのワークだし、はよ終わらんかな…」と正直なところ、消極的な気持ちで一杯でした。しかし、講師の倉茂先生の大変テンポよく内容の濃いお話と、受講生をうまく引き込む発問テクニックで、昼食を挟んだ講義に引き込まれてしまいました。前職での経験もあり、授業方法にも少しばかりの自信を持っていたので

すが、「発問と授業展開法」や「板書のテクニック」など、あらためて整理されたお話から、実は出来ないない事がたくさんあることを認識させられました。

最後の時間の「授業づくりワークショップ」は、グループで選んだ「授業のヤマ」を、実際の授業でどのように展開して行くのかという授業案と板書案を作成し、最後に発表し合うというアクティブな内容でした。5人での準備の時間は笑いや提案が絶えず、あっという間に過ぎてしまい、発表を終える頃には朝の消極的な気持ちが嘘のように、もっと時間があれば良い発表が出来たのに！と思うくらい有意義な一日であったと思う自分がいました。また、昼食をグループで取ることによって、スムーズにグループワークに進むという、ワークショップの運営方法にも大変感心致しました。

既に後期授業が始まっておりますが、後期担当の科目は板書中心とし、単に聴くだけの講義にならないよう、講義中の演習などで授業に参加している感を持たせるように意識して進めております。あらためて授業に向き合う機会を頂き、ありがとうございました。

## 2015年度前期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】※実施期間：第14回目または第15回目（8週で終了するクォーター科目は第7回目または第8回目）

区分	対象科目	科目数	履修者数	回答者数	回答率 (%)
学部	前期前半クォーター科目	10	410	296	72.2
	前期科目	1,508	70,551	49,913	70.8
	前期後半クォーター科目	9	425	300	70.6
大学院	前期前半クォーター科目	8	186	84	45.2
	前期科目	140	1,475	997	67.6
	前期後半クォーター科目	9	171	88	51.5
合計	前期前半クォーター科目	18	596	380	63.8
	前期科目	1,648	72,026	50,910	70.7
	前期後半クォーター科目	18	596	388	65.1
総計	前期全科目	1,684	73,218	51,678	70.6

### 【設問項目】

設問内容	選択肢
問1 この授業は、「授業のねらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切でなかった 1：まったくなかった
問2 この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5：進んだ 4：ほぼ進んだ 3：どちらとも言えない 2：あまり進まなかった 1：まったく進まなかった
問3 この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問4 この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問5 この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切ではなかった 1：まったく適切ではなかった
問6 この授業の進捗度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切ではなかった 1：まったく適切ではなかった
問7 あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5：100%～90% 4：90%未満～80% 3：80%未満～70% 2：70%未満～60% 1：60%未満
問8 この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成（準備）に何時間かけましたか？	5：3時間以上 4：2時間台 3：1時間台 2：30分～1時間 1：30分未満
問9 総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問10 この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述

### 【集計結果】※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	
工学部	都市デザイン工学科	41	4.14	4.15	3.91	3.94	3.90	3.94	3.29	3.07	3.98	
	空間デザイン学科	(前期前半クォーター科目)	1	4.73	4.73	4.00	4.15	3.50	4.15	3.27	2.04	4.27
		(前期後半クォーター科目)	37	4.35	4.24	4.15	4.22	4.17	4.18	3.39	2.70	4.32
	建築学科	45	4.43	4.43	4.20	4.27	4.26	4.24	3.46	3.05	4.39	
	機械工学科	73	4.25	4.27	4.01	4.05	4.06	4.06	3.29	2.68	4.09	
	ロボット工学科	(前期前半クォーター科目)	2	4.22	4.30	3.56	3.92	3.49	3.81	3.10	2.49	3.96
		(前期後半クォーター科目)	47	4.24	4.25	3.91	4.04	4.09	3.95	3.18	2.87	4.07
	電気電子システム工学科	(前期前半クォーター科目)	1	4.16	4.32	3.84	4.07	3.70	3.81	3.07	2.60	3.70
		(前期後半クォーター科目)	40	4.31	4.32	3.98	4.03	4.06	4.05	3.05	2.70	4.12
	電子情報通信工学科	(前期前半クォーター科目)	1	4.05	4.16	3.69	3.87	3.85	3.85	2.78	2.02	3.75
		(前期後半クォーター科目)	2	4.40	4.60	3.60	4.00	4.30	4.00	3.20	2.80	4.30
	応用化学科	(前期前半クォーター科目)	88	4.20	4.15	3.81	3.84	3.95	3.89	3.07	2.88	3.92
		(前期後半クォーター科目)	1	4.39	4.50	4.28	4.28	4.11	4.22	3.56	3.22	4.50
	環境工学科	(前期前半クォーター科目)	1	4.62	4.79	4.10	4.31	4.54	4.25	2.62	2.12	4.48
		(前期後半クォーター科目)	36	4.34	4.38	3.92	4.01	4.02	4.02	2.87	2.92	4.14
	生命工学科	(前期前半クォーター科目)	1	4.45	4.21	4.15	3.99	4.28	4.28	3.31	2.54	4.30
		(前期後半クォーター科目)	41	4.33	4.34	4.08	4.12	4.07	4.14	3.27	2.82	4.16
	生命工学科	43	4.10	4.09	3.78	3.91	3.93	3.85	3.10	2.89	3.90	
	生体医工学科	7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	共通科目	121	4.37	4.40	4.13	4.23	4.20	4.20	3.27	2.50	4.11	
その他連携科目	21	4.18	4.25	3.97	3.98	4.01	4.01	3.36	1.81	3.87		
キャリア形成の基礎	194	4.36	4.42	4.16	4.22	4.22	4.19	3.46	2.23	4.14		
工学の基礎	183	4.30	4.35	3.99	4.04	4.12	4.08	3.40	2.45	4.06		
情報科学部	コンピュータ科学科	37	4.21	4.24	3.85	3.97	4.03	3.94	3.04	2.71	4.00	
	情報システム学科	38	4.24	4.29	3.95	4.03	4.05	4.04	3.18	2.76	4.07	
	情報メディア学科	39	4.09	4.14	3.68	3.79	3.91	3.88	3.02	2.76	3.89	
	情報ネットワーク学科	37	4.20	4.26	3.89	3.91	4.03	3.99	3.10	2.73	4.02	
	共通科目	155	4.20	4.19	3.96	4.00	3.99	4.02	3.11	2.30	3.98	
	(前期前半クォーター科目)	3	4.86	4.57	4.43	4.43	4.00	4.43	3.57	3.00	4.43	
知的財産学部	専門科目	34	4.42	4.40	4.25	4.32	4.30	4.27	3.43	2.46	4.27	
	(前期後半クォーター科目)	3	4.45	4.45	4.14	4.00	4.23	4.05	3.27	3.18	4.14	
	基礎教育科目	46	4.50	4.51	4.29	4.40	4.37	4.42	3.51	2.56	4.20	
	その他連携科目	2	4.29	4.34	3.92	4.00	3.81	4.07	3.35	2.84	4.04	
	導入領域	10	4.31	4.42	3.97	4.02	4.14	4.08	3.33	2.82	4.16	
	教養領域	34	4.15	4.24	3.80	3.86	3.94	3.88	3.03	2.54	3.81	
	専門領域	14	4.32	4.25	4.01	4.14	4.13	4.10	3.15	2.66	4.07	
	展開領域	14	4.48	4.42	4.51	4.58	4.49	4.48	3.66	2.73	4.52	
	教職科目	31	4.38	4.37	4.20	4.27	4.30	4.26	3.19	2.71	4.31	
	(前期前半クォーター科目)	10	4.59	4.55	4.06	4.20	3.80	4.15	3.15	2.63	4.15	
平均(合計)	1,508	4.28	4.30	4.00	4.06	4.09	4.07	3.25	2.57	4.07		
(前期後半クォーター科目)	9	4.32	4.22	4.00	4.05	4.17	4.07	3.05	2.55	4.14		
総計	1,527	4.29	4.30	4.00	4.06	4.09	4.07	3.25	2.57	4.07		

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課  
TEL.06-6954-4083  
FAX.06-6954-4049  
kyoumuka@ofc.oit.ac.jp

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立てください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。  
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。